

23春闘を働く者のたたかいへと押し上げる秋田地本声明を発出！④

【一部抜粋】

社会情勢を見ても、多くの企業が軒並み「賃上げムード」をつくり出している中、JR東日本の経営状況は第3四半期決算を黒字で迎え、他産業よりも景気の流れが遅れる鉄道業ではあるが、組合員・社員の奮闘により業績の改善に貢献してきた。そのような中で、会社は人材確保の観点から入社4年目までの社員に初任給特別措置として、当面の間支給する考えを示し、労働組合が要求する前から人材確保のための一時的な措置という状況が出来上がってしまった。

組合員と家族の生活水準向上と、働く意欲を繋げ、23春闘を働く者のたたかいへと押し上げる秋田地本声明

2月7日に開催したJR東労組第49回定期中央委員会において、定期昇給「係数4」、ベースアップ10,000円（物価上昇分・生活上分含む）の要求を決定した。相次ぐ食品の値上げや燃料費の高騰などにより、組合員の生活は苦しくなる一方で、さらに労働密度が増すことにより、働くことに比重が増え、「ゆとりや豊かさ」といった余裕が失われ始めている。「定期昇給2カット」「期末手当の減額」は物価が高騰し、組合員の生活に大きな影響をもたらしている。このような組合員の生活を改善するためには、労働者の連帯と共闘を促す「統一要求・統一闘争」を掲げ、混合分野にある賃上げ相対増分3%を、生活上分をベースアップとして加え、統一要求としてたたかいをつくり出していく。要求額に対する「高い・低い」の議論はなく、組合員の声に基いているのが重要である。

春季生活闘争（春闘）は、個別に企業・労働組合では十分なたたかう力がなく、回帰期に共にたたかう組織的意欲を高めようとする闘争形態が春闘である。重要なことは立場の弱い労働者が統一要求を掲げ団結し運動を展開していくことにある。

賃金は、基本的に労働力の再生産費が含まれていることから、経験年数（年功型）のみならず、家族構成（扶養手当）や働いている箇所（都市手当）など様々な要素が取り入れられている。機械化が促進し、業務が単純化されてきている一方で、即戦力な人材に新たな業務内容が加わるなど労働密度が増しているのが現状である。このような状況だからこそ、自らの労働力を高く売るためのたたかいをつくり出さなければならない。

しかし、社会の意見情報の一部で「1,000円～3,000円」という要望が行われ、物価上昇分に因襲した表現となっている。社員の多くがベースアップを切望しているにも関わらず、社友が低額増給をついていると言っても過言ではない。

社会情勢を見ても、多くの企業が軒並み「賃上げムード」をつくり出している中、JR東日本の経営状況は第3四半期決算を黒字で迎え、他産業よりも景気の流れが遅れる鉄道業ではあるが、組合員・社員の奮闘により業績の改善に貢献してきた。そのような中で、会社は人材確保の観点から入社4年目までの社員に初任給特別措置として、当面の間支給する考えを示し、労働組合が要求する前から人材確保のための一時的な措置という状況が出来上がってしまった。

23春闘の勝利は掲げた要求実現に向けてひとりでも多くの労働者が団結していくことである。全組合員で東労組の組織強化・拡大を実現しよう！

2023年2月17日 東日本旅客鉄道労働組合 秋田地方本部 行 委 員 会

本格的に春闘がスタートした年明けの報道

2023年1月5日に開催された経済三団体の新年祝賀会にて、マスコミが11社の企業トップに考えを聞いたところ…

賃上げします

6社

サントリーHD
日本生命 三井不動産
すかいらーくHD など

賃上げ前向き

4社

ANAホールディングス
ローソン DeNA
みずほFG

賃上げに慎重

1社

JR東日本

賃上げ見送り

0社

イオンリテール
5%賃上げ
妥結！

中小企業
6割が
賃上げ予定

ホンダ
ベア12,500円
妥結！

3月1日 産経新聞より

物価上昇・賃上げムードの中…

3/2に第1回交渉が行われました！

慎重に判断のスタンスは変わらず！

- ・3期ぶりの黒字。しかし、**通期の業績は楽観視できない。**
- ・運輸収入は**想定した計画まで達していない。**
- ・社員1人ひとりが事業の垣根を超えて成果を出すことで、仕事を通じた達成感・充実感、労働条件向上といった働きがいの創出と、社員・家族の幸福の実現を好循環に繋げる。



いつまで同じような回答を繰り返すのか！
組合員・の生活実態には言及していない！
「働きがい」という言葉でごまかすな！

第2回交渉に向けて議論を深めよう！
東労組への結集を呼びかけよう！